とかち新聞
主筆　松山明
郵便番号089−37　北海道足寄郡足寄町南3区　とかち新聞社
毎月15日発行　購読料　1カ月2百円　1カ年前納2千円

「歌で世の中を変えたい」

―大空コンサートから―

（前号からつづく）

「松山千春ビック・サマー・シーン・79大空」コンサートの第三部は、ふたたびバックがついて、白の上下に着がえた千春がハンドマイクを手にして登場、「銀の雨」を歌う

『どうもありがとう、うしろの方チャンと見えるかい（見えるとの声）この色なんだかわかるか（白との声）それじゃみんなのために

といって「君が好きさ」を歌い、さかんな声援に対して

『お前らは本当にエライ！もりあがってきてるんじゃないか、もう一発いくぞ』

つづいて「青春11」を歌って

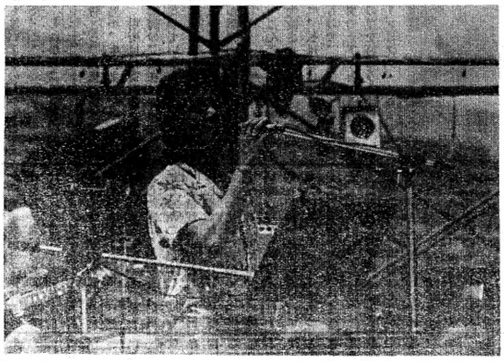
『オーイ、うしろの方まだまだ元気あるか（あーるとの声）ヨーシ、まだまだガンバるからな（チハル、チハルの声）しかしね、年をとるとダメですよ（笑声）イキが荒くなってきますよ、ねえ、淋しくなったりしてこのあいだきかれたんだけど、松山千春なぜ歌うんだってきかれて、オレはみんなに対してメッセージというか、そういう形でずうっと歌を歌っていきたいと思うし（拍手）もしみんなが煮つまったときとかな、ホントにコケたときとかな、そんなときオレの歌がきけたらいいと思ったらきいてほしい（拍手）そこで特に歌で世の中変えようと真剣に考えはじめてみた（拍手）金で世の中を変えようとするバカもいるから、歌で世の中変えようというバカがいてもいいだろう、あいつらには絶対負けたくない（拍手）いつか絶対、オレたちのもてるようなそんな社会の生れることを信じています（拍手）』

新曲「夜明け」を歌う

『なんどもいってきたけど いまのうちじやない、若いうちでなければできないこといっぱいあるんだよね、みんなどんどん挑戦してみたら、もうガタガタいわないでさ、自分はこれだと思ったら思い切りやってみたら、失敗したっていい失敗したって、コケたってねわれわれ若いし、オレも人るんだぞ（笑声）失敗をおそれていてはなにもできないしな（そうだとの声）そうだ（笑声）まだまだ臆病になる年でもないし、コケたってもともとだしな、人と同じことやってもしようがない、自分でやりだいと思ったらもう押えられなかったみんなに迷惑をかけたけどな（そんことないよの声）これからもみんなのやつかいになるかと思うけどな、バカな男がひとりでハシヤイでいると思って、これからもずうっとオレを見ていてほしいなと（拍手）そのかわり自分でできるだけ自分の気持を素直に歌っていきたいし、みんなも幸せになってほしいし、みんなまだまだ若いし、いろんなことに挑戦してもらいたいし、オレやんだよね、苦しんだり悩んで（笑声）お前もガンバレよ』

「空飛ぶ鳥のように野を吹く風のように」を歌うとともに、スヂージ最上段からの人工雪がライトに照らされて金色に映えるほどに『チハル、ガンバレ！』の声援

『本当にどうもありがとうみんなもいけるとこまでいってみてください、そのかわりな　セコクなるな、大きな人間になってもらいたい（チーサン太ってのヤジでドッと笑声）お前に任せたらすべてか決まるような気がする、ねえ、みんなが全部が幸せになれれば最高だし、全部が思いどおりに生きていければ最高だし、最高というよりそれが当然だと思うんだな、なまじっかな、金に目がくらんでチヨロチヨロするやつとか、そういうバカが出てくるから、落ち込む人が出てきたりしてな、思いっ切り自由にしてもらいたいし、大きな大きな人間になってもらいたい、オレの住んでるところは足寄というチンケなところだけど、けどもっともっとデカイ男になろうと思ってます（ガンバレーの声）みんなありがとうね、お前ら最高だね、みんないいやつだ（拍手）』



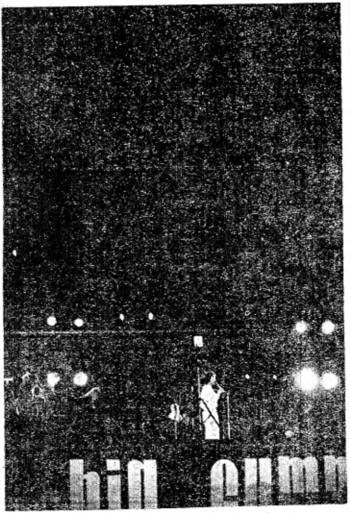
「生きがい」を歌いおわったが、アンコールの拍手がつづき、チハル、チハルの声か会場いっぱいに

『ありがとう、本当に最後までありがとうね、このコンサートができたのもみんながオレにここまで力をあたえてくれたと思うし、オレもそれに負けられないで歌わせてもらう（チハル、チハルの声）全国のみんなにきいてもらいたい、こんなにやれることができて、そんなかでいろんな人にあったし、いろんな人にわかれたし、だれかにあってだれかとわかれていくんじゃないかと思うけど、いちいちくり返していられないし、あしたからのオレをまた見てください、きようはみんなのおかげでありがとう』

といって「季節の中で」を歌う、ドライアイスがステージいっぱい立ちこめる、歌いおえたがワアワア、キャー、キャーの声援が鳴りやまず逆に会場からアリガトウ

『どうもありがとう（アリガトウの声）オレ昔とそんなに変っていないと思うし、できれば一生このままでいきたい（拍手）みんなもそうだけど、オレを育ててくれた竹田さんを忘れないでほしい、二年近くになるんだけど（チハル、泣かないでの声）人間って非常に淋しくて…』

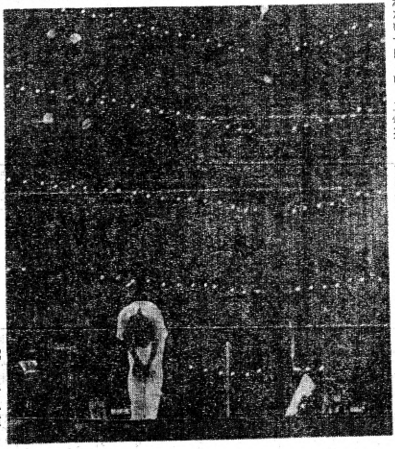
とデビュー曲の「旅立ち」を歌い出したものの、涙声で途切れ途切れとなり、これを助けるように聴衆が「旅立ち」のコーラスとなって、どうにか歌いおわり千春が『ありがとう』といって退場したものの、拍手とともにチハル、チハルの整然とした声援が夜空に長く大きく鳴り響き、



（金色に輝く人工雪がふるステージ）

最後に千春が登場して、ふたたび「大空と大地の中で」を歌いながら『みんなガンバツてなあ（ハーイの声）思いっ切り生きてくれえ』と呼びかけて　午後九時近くにステージを締めくくると会場から『ありがとう、ありがとう』の声がはね返っていました。

あとがき　二万五千人もの大コンサートに千春も乗りに乗った形ですが、はじめからおわりまでフアンのマナーのよさに感心させられました。舞台と客席とが一体となったさわやかなひとときだったと思います。



歌いおわつて深々と頭を下げる千春

ニュースを斬る

◆…目下ヒット中のフォーシンガーさだまさしの亭主関白ぶりを歌った「関白宣言」をもじった「目白宣言」と題する漫画が「読売新聞」の政治面に載っていました。

◆…〝目白〟といえばご存じロッキード事件の主役被告である田中元首相の〝目白御殿〟のことです。

◆…その漫画では、田中被告がギターを弾いて大平現首相に向って『お前を総理にする前に言っておきたい事がある、かなりきびしい話もするがワシの本音を聞いておけ……大臣はうまく作れ、いつもきれいな風でいろ、忘れてくれるな、金も出来ない男に党を守れるはずなどないってことを……お前はアーウー、それ以外は口にせず、黙ってワシについてこい』と歌っている格好でした。

この「目白宣言」

◆…もともと大平内閣は自民党内の最大派閥であった田中派の全面協力でできあがっただけに〝角影内閣〟とのレッテルを張られているほどで、漫画にとりあげられても仕方のないあいだがらです。

◆…こんどの解散・総選挙はハッキリした目的も理由もなく、ただ自民党の議席を過半数以上に伸ばしたい―イヤそれよりも大平派の勢力をふやして党内を押えたい―それではないでしようか。

◆…それには〝目白宣言〟どおりに『金も出来ない男に党を守れるはずなどない』のであって、こんどの選挙でも大企業、大商社から大いに資金をあつめて、選挙後は必然的にその返礼のための金権政治がまかりとおるわけで、いつまでもこんな選挙、こんな政治が許されるのでしょうか。

秋のコンサート

「失くした心」

九月三日の大阪厚生年金会館を皮切りにはじまった本年後半の松山千春コンサート「失くした心」は、五日の岐阜、十二日の郡山、十三日の山形につづいて、つぎの日程が予定されています。

16日	別府市民会館
17日	小倉市民会館
22日	沖縄市営体育館
28日	弘前市民会館
29日	秋田県民会館
十月	
2日	岩手県民会館
8日	福井文化会館
9日	長野県民会館
17日	網走市民会館
18日	紋別市民会館
22日	函館市民会館
24日	松山市民会館
26日	高松市民会館
30日	茨城県民文化センター
31日	千葉文化会館
十一月	
5日	姫路文化センター
8日	新潟県民会館
9日	金沢観光会館
12日	徳島文化センター
13日	高知県民文化ホール
16日	岡山市民会館
18日	名古屋市民会館
21日	小樽
22日	苫小牧
26日	宮城県民会館
27日	群馬県民会館

○…本年前半のコンサートは「生きがい」をテーマにしてメッセージを訴えましたが、こんどは「失くした心」をテーマに、現代人の心に失くしたものはなにかを千春流にどう訴えるのかです。

○…おかげさまで各会場とも定員の二十倍から五十倍もの入場ご希望者があってすでにチケット売り切れの個所もありますが、見られない方々のために、自分の体力づくりを兼ねて各地で公開野球試合もやりますのでご注意してください。